

防犯コンサルタント松丸俊彦 × Secual代表菊池正和が徹底解説！

震災から100年、能登半島地震を経て見えてきた " 本当に必要な備え " 震災の教訓から生まれた防災・防犯の最前線

3月11日は「いのちの日」

この日は、東日本大震災をはじめとする多くの震災で命を守ることの重要性が再認識された日です。

この時期、震災の記憶がよみがえり、改めて「もし自分や家族が災害に遭ったら？」と考える方も多いのではないのでしょうか。関東大震災から100年が経ち、能登半島沖地震でも多くの人々が被災しました。あなたの大切な人たちを守るために、今こそ「備え」が求められています。スマートセキュリティおよびスマートタウン事業の株式会社Secual（本社：東京都渋谷区、代表取締役：菊池 正和、以下「Secual」）では、最新の防災技術を駆使して地域社会と連携し、家族や地域を守るための**災害に強いまちづくり**を推進しています。

今回のニュースレターでは、これらの震災の教訓を踏まえ、**Secualの技術を活用した防犯・防災対策**についてご紹介します。

大震災の教訓と防災対策の進化

関東大震災から100年という節目を迎え、改めて地震への備えを見直す重要性が高まっています。

1923年に起きた関東大震災では甚大な火災被害が発生し、特に都市部では火災旋風による犠牲者が多く発生しました。昼食時間帯の発生で煮炊きの火を使っていた家庭が多かったせいなどもあり、人的被害のほとんどが火災によるものだったことから、「地震発生直後の火の始末」「耐震・耐火建築の推進」が重要と認識された災害でした。

さらに2024年は、能登半島地震や台風10号など、さまざまな自然災害が日本各地で発生しました。特に1月に発生した能登半島沖地震は、震源地が陸地に近く、強い揺れ・津波・建物倒壊が発生。「孤立集落」「電力・通信インフラの途絶」「高齢者の避難」という大きな問題が浮き彫りとなりました。

震災の記憶を忘れず、未来に備えるための意識を高めるこの期間、地震発生直後の「初動対応の迅速化」「避難誘導」「情報伝達の重要性」など、過去の教訓から学ぶことが求められています。



Secualの技術で実現する「震災に強いまちづくり」

《地震後の安否確認 × 防犯・見守り技術》

簡単に設置設定が可能なスマートセキュリティサービス『Secual Home（セキュアルホーム）』

▶ 人感センサーで日々の活動状況をモニタリング。一定時間動きが見られなかった際に専用アプリへ通知します。また、ご家族様と共有でアプリを使用することで、早期の安否確認が可能です。さらに、開閉センサーで玄関や窓の振動・開閉を検知。地震後の不正侵入リスクを低減し、避難後も安心した生活をサポートします。

※仮設住宅での活用もおススメ



《停電・通信障害時の情報共有 × スピーカー・再生エネルギー》

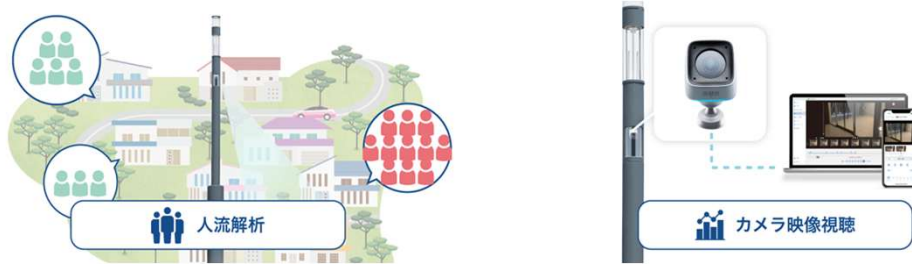
防犯・防災・見守り機能搭載の多機能なデジタル街路灯『Secual Smart Pole（セキュアルスマートポール）』

▶ スピーカー機能で停電時でも地域の災害情報を発信。加えて、LED灯が警報レベルに合わせたカラーに点滅することで、視覚的にもお知らせします。また、太陽光パネルや蓄電池は災害時のバックアップ電源として機能し、避難所の電力供給サポートします。※Wi-Fiスポットとしても活用可



《孤立地域支援 × IoT・映像解析》

▶ Secual Smart Poleの映像解析機能で人流データの活用し、避難所の混雑可視化することで支援物資配分を最適化。また、防犯カメラが孤立地域の被災状況をリアルタイムで把握することが可能です。



過去の震災対応から学ぶ、いま必要な備えとは？

関東大震災から100年、そして能登半島地震をはじめとする近年の災害を受け、防災・防犯のあり方が改めて問われています。こうした大規模災害の際、被害を拡大させた要因の一つが「情報の遮断」でした。

震災直後、多くの地域で停電や通信障害が発生し、家族や近隣住民の安否確認ができず、避難の遅れを招いたというケースが多く報告されています。また、避難所ではプライバシーの確保が難しく、防犯対策が不十分なことによる不安も指摘されました。さらに、孤立地域では支援の遅れが問題となり、特に高齢者の避難支援の難しさが浮き彫りになりました。

こうした課題を踏まえ、Secualでは「安否確認」「防犯・見守り」「停電・通信障害時の情報共有」に対応する技術を開発しています。次のセクションでは、防犯コンサルタント・松丸俊彦氏とSecual代表・菊池正和が、「仮設住宅や避難所での防犯リスク」「避難所や仮設住宅での防犯対策でできることは？」「日頃からできる自宅での防災・防犯対策」など、家庭でできる具体的な防災・防犯対策について解説します。

今こそ、震災への備えを見直し、大切な人の安全を守るために何ができるかを考えましょう。

特別対談！防犯コンサルタント松丸俊彦 × Secual代表 菊池正和



防犯コンサルタント
松丸 俊彦



Secual代表
菊池正和

——仮設住宅や避難所での防犯リスクどこまで考えていますか？

菊池：仮設住宅では防犯対策が不十分だと聞きますが、実際にどのような被害が起きているのでしょうか？

松丸：ボランティアや行政関係者を装って盗みに入るケースがあります。特に女性の性的被害の問題は深刻ですが、公にされることはほとんどありません。また、被災して空き家になった家が狙われることも多く、歪んで施錠できないドアや放置された車が標的になっています。

菊池：避難所や仮設住宅では大手警備会社のような本格的な警備は難しいですね。低コストで臨時的セキュリティシステムを導入する方が現実的だと感じます。仮設住宅は1つのまちのようなものなので、自治体が防犯や見守り機能付きの仮設住宅を導入することが理想だと思います。特に能登半島では高齢者の見守りを自治体が積極的に進めているようです。

——避難所や仮設住宅での防犯対策、今できることは？

松丸：

以下のポイントを意識しておくことが大切です。

- 1) 身分証明書は常に携帯する（行政側の本人確認用。更に、紛失に備えてコピーを非常持ち出しバッグに入れる）
- 2) 信頼できる人を見つけ、共に行動する（顔見知りの他、避難所の運営者や身元の明らかなボランティアなど）
- 3) 貴重品は一か所にまとめない（盗難リスクを分散させる）
- 4) 個人情報の開示は慎重に（SNSで「家が留守」だとわかる投稿はNG）
- 5) 就寝時の安全確保（盗難・性的被害防止の為、防犯ブザーを枕元に置くなど）
- 6) トイレなど暗い場所への移動は付き添いを付ける（特に高齢者）
- 7) 防犯ブザーやホイッスルを携帯する（すぐに使えるようにしておく）
- 8) 見知らぬ人からの飲食物は口にしない（意図的な混入や体調不良リスクを避ける）
- 9) 支援物資の受け取り詐欺に注意（「受け取ったら有料だった」というトラブルを防ぐ）

菊池：

これまでの被災地は地方が多く、そもそも鍵を掛ける習慣がないことが問題ですよね。スマートロックを導入すれば防犯効果が高まりそうですが、コスト面が課題です。

松丸：

侵入被害の大半は無締りによるものです。被害を受けた後になって「そういえば不審な人がいた」という証言が出てくることが多いので、少しでも違和感を覚えたら早めに避難所の運営スタッフに報告することが大切です。

菊池：

とはいえ、被災直後は生活の立ち上げが最優先で、防犯機能の導入が後回しになりがちでは？

松丸：

その通りです。しかし、誰かが何かを我慢しなければならない環境では、モノの盗難や犯罪が多発しやすくなります。特に犯人は、無防備な人を狙うものです。

——自宅での防災・防犯対策、日頃からできることは？

松丸：

日常の防災対策にも防犯の視点を取り入れることが重要です。

- 1) 家族間の連絡方法や広域避難場所を確認し、避難ルートを複数確保する（実際に歩いて危険箇所を確認する）
- 2) 防犯フィルムは防災にも有効（窓ガラスの飛散防止）
- 3) 被災後はガラスの破片が散乱するため、自宅でもスリッパや靴を用意
- 4) 防災素材のカーテンが理想的（燃え上がるリスクを軽減）
- 5) 消火器の準備を徹底（初期消火が被害拡大を防ぐ）

菊池：

確かに、地域のつながりが防犯対策としても機能するんですね。Secualでも防犯カメラやスマートロックの導入にとどまらず、5GやAIを活用した地域全体の防犯・見守りネットワークを強化する技術を提供していきたいと考えています。

松丸：

なるほど。それなら避難所や仮設住宅の環境整備にも役立ちますね。やはり、防犯対策はテクノロジーだけでなく、「人の目」との組み合わせが大切です。例えば、顔の知らない人を見かけたら挨拶をすることも、不審者への牽制になります。

菊池：

そうですね。技術だけでなく、地域のつながりを活かした「防犯の仕組み作り」が鍵になります。今後も、5G・AI・IoTを活用した防犯・見守りネットワークを進化させ、地域の安全を支えていきたいと思えます。

命を守るための備えを今すぐ見直そう

「いのちの日」を迎え震災の教訓を未来に活かすことが、これまで以上に求められています。近年、**5GやAIを活用した最新の防犯・防災技術**が注目されており、災害発生時の迅速な対応や、被害の最小化を支える新たなソリューションが次々と誕生しています。

——もしもの時、あなたは大切な人を守れる自信がありますか？

Secualは、これまでの防犯・見守り技術に加え、**5G対応のSmart PoleやAIを活用した映像解析、防災・環境モニタリング技術の発展**に注力し、地域の安全を支えています。**通信や電力インフラが寸断された状況でも、確実に情報を届ける技術がいま求められています。**

これからも皆様と共に「命を守る技術」を進化させ、より安全で災害に強い未来を創造してまいります。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

株式会社Secual 事業戦略室 広報/PR担当：大野
TEL：080-3728-7459 Mail：pr@secual-inc.com